

2025 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 K u d a n 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 C E O 項 大 雨
(コード番号 4425 東証グロース)
問 合 せ 先 管 理 部 長 石 井 達 裕
(T E L . 0 3 - 6 8 9 2 - 7 3 3 3)

決算説明動画及び決算説明スクリプトのオンライン配信のご案内

当社は、2026 年 3 月期第 2 四半期決算説明動画及び決算説明スクリプトをオンラインにて配信いたします。以下の決算説明動画 URL からご覧いただくか、本案内で公開するスクリプトをご参照いただきますようお願いいたします。

【2026 年 3 月期第 2 四半期 決算説明概要】

1. 公開日時：2025 年 11 月 13 日（木）
2. 説明者：代表取締役 CEO 項 大雨
管理部長 石井 達裕

▼▼決算説明動画はこちらからご確認いただけます▼▼

<https://youtu.be/nYs5o40xH4E>



2026年3月期 2Q決算説明

Kudan株式会社（東証グロース：4425）
2025年11月13日

項大雨（以下、項）：こんにちは、Kudan 代表取締役の項です。2026 年 3 月期第 2 四半期決算について、説明をいたします。

ハイライト



- 2Qまでの実績として、全事業領域で売上の伸びが好調
 - 売上4億円となり、前年比+170%で大幅に伸長
 - 下期も好調な見通しを維持し、通期の業績予想は上方修正済み¹
- 業績拡大の背景として、急速な市場変化に対して、今期からの事業戦略「SW技術の拡張」「HWパッケージの活用」が効果を発揮し、市場で先進的なポジションを確保するKudanのデジタルツイン・ロボットの両事業が加速

[百万円]	25/3期		26/3期		
	2Q累計	通期	2Q累計	通期（予想）	
				修正前	修正後
売上高	148	517	400	700	920~1120
営業利益	△437	△800	△416	△780	△770~△730
経常利益	△519	△743	△287	-	-
純利益	△553	△801	△329	-	-
調整後営業利益 ²	△390	△753	△367	△720	△720~△680

1. 2025年10月31日「通期業績予想の修正に関するお知らせ」参照
2. 営業利益（損失）に毎期経常的に発生する政府からの研究開発補助金収入を加えた、事業収益性の指標となる利益数値

項：まずは、ハイライトです。

第 2 四半期までの実績として、全事業領域で売上の伸びが好調に推移しております。売上は 4 億円となり、前年比で 170%増と大幅に伸長しました。下期も好調な見通しを維持しており、通期の業績予想は売上と利益ともに直近で上方修正をしております。

業績拡大の背景としては、急速な市場変化に対して、今期からの事業戦略としております「ソフトウェア技術の拡張」と「ハードウェアパッケージの活用」が効果を発揮し、市場で先進的なポジションを確保する Kudan のデジタルツインとロボットの両事業が加速している状況となっております。

管理部長の石井より、詳細を説明いたします。

通期業績予想の修正 ― 概要



- 成長戦略となる「HWパッケージの活用」「SW技術の拡張」が順調に進捗し、多角的に売上が伸長¹。受注済み政府案件の会計処理が確定したことにより、通期業績予想を上方修正²
 - 通期売上は7億円から9.2~10.2億円に上方修正（修正前比+31~46%/前期比+80~100%）
 - 今期下期から収益性改善が大きく進むため、通期の調整後利益³は-7.2億円から-7.2~-6.8億円への改善にとどまるも、期末時点⁴の調整後利益³は-5.9億円から-5.2~-4.8億円へとより大幅に改善
 - その結果、来期の調整後利益³は-3.5~-4億円へと赤字圧縮が加速（詳細はP5参照）

2026年3月期の業績予想 [百万円]			
	修正前	修正後	
売上高	700	920~1020	・デジタルツイン向けに販売増（+150~250百万円） ・ロボット向けに政府案件の受注上振れ ⁵ （+70百万円）
営業利益	△780	△770~△730	・デジタルツイン売上増による利益増は進捗（+80~120百万円） ・コスト低減の遅延により当期利益影響は限定的にとどまる
調整後営業利益 ³	△720	△720~△680	
調整後営業利益 ³ （期末時点 ⁴ ）	△590	△520~△480	・コスト低減は今期中に達成予定のため、期末時点では収益性を大幅に改善し、来期は通期で赤字圧縮が加速

1. 過去資料 2025年3月期 通期決算説明資料のP12~15を参照（本資料の補足にて再掲）

2. 大型の政府案件の受注が確定して以降、今期業績への反映の精査を継続しており、現時点で委託側からの承認・支払いプロセスが進捗したことにより、会計処理の見通しが確定

3. 営業利益（損失）に毎期経常的に発生する政府からの研究開発補助金収入を加えた、事業収益性の指標となる利益数値

4. 各期末月時点での費用実績及び見込を12か月換算したもの

5. 期首時点で予想の売上から上方修正であり、個別案件の受注額とは異なる

3

石井 達裕（以下、石井）：10月31日に開示いたしました通期業績予想の修正につきまして、管理部長の石井よりご説明申し上げます。

まず、今回の業績予想修正の概要でございます。

当社の成長戦略となります「ハードウェアパッケージの活用」および「ソフトウェア技術の拡張」が順調に進捗し、多角的に売上が伸長しております。また、受注済みの政府案件につきまして、会計処理が確定したことにより、通期業績予想を上方修正いたしました。

具体的には、通期売上高を修正前7億円、修正後9.2億円から10.2億円へと上方修正いたしました。これは修正前比でプラス31%から46%、前期比ではプラス80%から100%という大幅な増収となります。

収益性につきましては、今期下期から収益性改善が大きく進むため、通期の調整後営業利益は修正前マイナス7.2億円、修正後マイナス7.2億円からマイナス6.8億円への改善にとどまるものの、期末時点の調整後営業利益は修正前マイナス5.9億円、修正後マイナス5.2億円からマイナス4.8億円へと、より大幅に改善する見込みでございます。

その結果、来期の調整後営業利益はマイナス3.5億円からマイナス4億円へと赤字圧縮が加速する見通しでございます。詳細につきましては、後ほど5ページ目でご説明申し上げます。

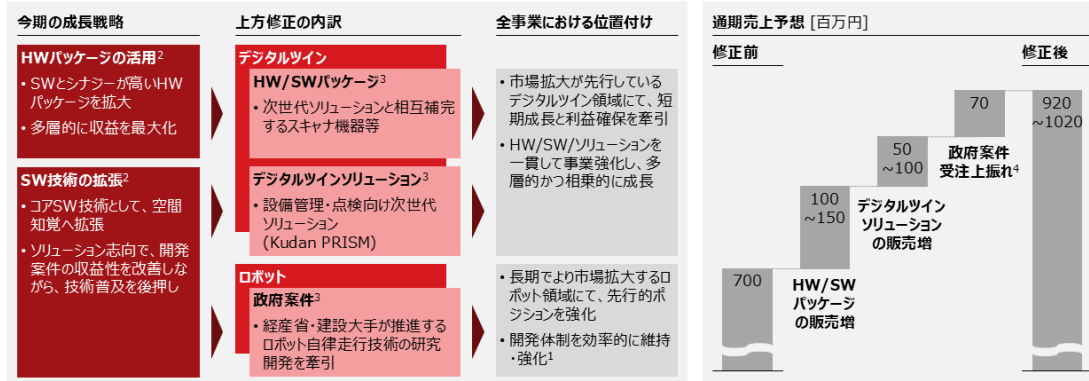
通期業績予想の修正 ― 売上の伸長



- デジタルツイン向けとロボット向けの双方で多角的に売上が伸長
- デジタルツイン向けではシナジー最大化と短期利益の確保、ロボット向けでは開発体制と中長期の競争力の強化¹に寄与

成長戦略に合致した領域において順調に売上が伸長し...

売上の上方修正（+31~46%）を見込む



1. 研究開発費用に対応した売上が充当され、開発に係る実質的なコスト負担を効率化することで体制を維持・強化

2. 過去資料 2025年3月期 通期決算説明資料のP12~15を参照（本資料の補足にて再掲）

3. 過去資料 2026年3月期 1Q決算説明資料のP7~10を参照（本資料の補足にて再掲）

4. 期首時点で予想の売上に上方修正で対応、個別案件の受注額とは異なる

4

石井：次に、売上の伸長についてご説明いたします。

今回の上方修正は、デジタルツイン向けとロボット向けの双方で多角的に売上が伸長したことによるものでございます。当社は、「ハードウェアパッケージの活用」と「ソフトウェア技術の拡張」という2つの成長戦略を推進しております。

ハードウェアパッケージの活用では、ソフトウェアとシナジーが高いハードウェアパッケージを拡大し、多層的に収益を最大化しております。ソフトウェア技術の拡張では、コアソフトウェア技術を空間知覚領域へ拡張するとともに、ソリューション志向で開発案件の収益性を改善しながら、当社の技術普及を推進しております。具体的には、デジタルツイン領域では、ハードウェア・ソフトウェアパッケージとして、次世代ソリューションと相互補完するスキャナ機器等の販売が拡大しております。また、デジタルツインソリューションとして、設備管理・点検向け次世代ソリューション、Kudan PRISMの販売が進んでおります。

ロボット領域では、政府案件として、経済産業省・建設大手が推進するロボット自律走行技術の研究開発を牽引しております。

この結果、売上の上方修正としてプラス31%からプラス46%を見込んでおります。内訳といたしましては、ハードウェア・ソフトウェアパッケージの販売増が1億円から1.5億円、デジタルツインソリューションの販売増が0.5億円から1億円、そして政府案件の受注上振れが0.7億円となっております。

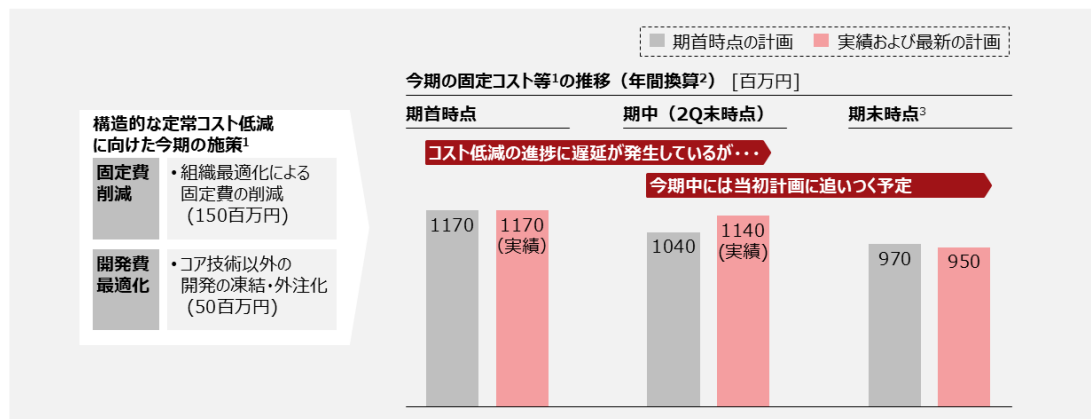
特に申し上げたいのは、デジタルツイン向けではシナジー最大化と短期利益の確保、ロボット向けでは開発体制と中長期の競争力の強化に寄与しているという点でございます。

市場拡大が先行しているデジタルツイン領域では、早期成長と利益確保を牽引し、長期でより市場拡大するロボット領域では、先行的なポジションを強化しております。また、開発体制を効率的に維持・強化しております。

通期業績予想の修正 — コスト構造の改善



- 構造的な定常コストの低減に向けて、固定費低減と開発最適化を通期で推進¹
- 期首時点の計画に対しては遅延あるものの、期末に向けては計画通りにコスト低減を達成する見込み



1. 過去資料 2025年3月期 通期決算説明資料のP16を参照
2. 販管費のうち一時的な費用を除いたもの。開発費を含む。
3. 各時点での費用実績及び見込を12か月換算したもの

5

石井：次に、コスト構造の改善についてご説明いたします。

当社は、構造的な定常コストの低減に向けて、固定費低減と開発最適化を通期で推進しております。

具体的な施策といたしましては、固定費削減として、組織最適化による固定費の削減、約 1.5 億円を実施しております。また、開発費最適化として、コア技術以外の開発の凍結・外注化、約 0.5 億円を実施しております。

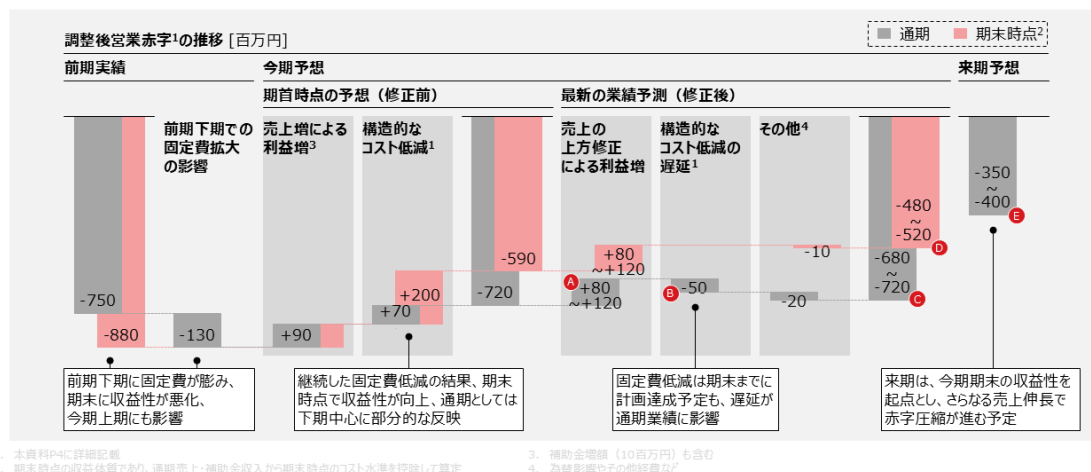
こちらのグラフは、今期の固定コスト等の推移を年間換算ベースで示したものでございます。期首時点では 11.7 億円でしたが、期中、第 2 四半期末時点では 11.4 億円の実績となっております。そして、期末時点では 9.5 億円まで削減する計画でございます。

ご覧のとおり、「コスト低減の進捗に遅延が発生しているが…」という表示がございます。これは期首時点の計画に対しては遅延があるものの、今期中には当初計画に追いつく予定でございます。

この結果、期末時点では固定コストが大幅に削減され、収益性が大きく改善することとなります。

通期業績予想の修正 — 赤字改善の見通し

- **A** 売上上方修正による利益増 (+0.8~1.2億円) するも、**B** コスト低減の遅延¹等により**C** 通期利益の修正は限定的 (+0~0.4億円)
- 一方、固定費を中心としたコスト低減は今期中に完了するため、**D** 期末時点で収益性²は大きく改善され、そこを起点に**E** 来期は通期でも大きな赤字圧縮 (+3~3.5億円) を見込み、黒字化への道筋が明確化



石井：次に、赤字改善の見通しについてご説明いたします。

こちらのウォーターフォールチャートは、調整後営業赤字の推移を示したものでございます。
まず、前期実績はマイナス 7.5 億円でございます。前期下期に固定費が膨らみ、期末に収益性が悪化し、今期上期にも影響しております。

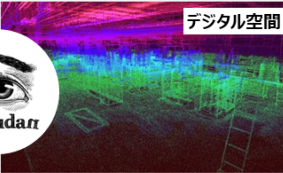
今期につきましては、期首時点の予想では、マイナス 7.2 億円を見込んでおりました。
しかしながら、今回の最新の業績予想では、以下の要因により改善が見込まれます。
A の売上の上方修正による利益増として、プラス 0.8 億円からプラス 1.2 億円を見込んでおります。一方で、B のコスト低減の遅延等により、マイナス 0.5 億円の影響がございます。
その結果、通期の調整後営業利益はマイナス 7.2 億円からマイナス 6.8 億円となり、通期利益の修正は限定的となっております。

一方で、固定費を中心としたコスト低減は今期中に完了するため、D の期末時点では収益性は大きく改善され、そこを起点として E の来期は通期でも大きな赤字圧縮を見込んでおります。
具体的には、期末時点の調整後営業利益はマイナス 5.2 億円からマイナス 4.8 億円へと大幅に改善し、来期は今期期末の収益性を起点とし、さらなる売上伸長で、マイナス 3.5 億円からマイナス 4 億円へと赤字圧縮が進む予定でございます。

固定費削減が今期中に完了することにより、期末時点で収益性が大きく改善し、来期は通期でも大きな赤字圧縮が加速いたします。これにより、黒字化への道筋が明確化されたと考えております。

以上が、通期業績予想の修正に関するご説明でございます。

■「機械の眼」として独自の空間知覚の社会実装を加速させるため、技術・事業領域の拡大¹を目指す

Kudanは現実空間とデジタル空間を結合する「空間知覚」		前期までの進捗	今期からの成長戦略
現実空間  デジタル空間  ロボットが現実空間をデジタルに把握 現実をデジタル空間上に複製	ロボットの自律化  デジタルツインによる生産性向上 	- 顧客製品化が伸長、中長期の成長に向けて積み上げ² - 製品化以降の普及速度が想定を下回り、短期的な課題として取り組み²	① SW技術の拡張 ② HWパッケージの活用 - 開発案件の収益強化と、製品普及の後押しのため、技術領域を拡大 - 独自の人工知覚を中核として、SWとHWの双方で補完技術を強化 - 中長期的には、引き続きライセンス収益による高成長を目指す

1. 詳細は前期通期決算説明資料（参照リンク）のP.12～14を参照
2. 詳細は前期通期決算説明資料（参照リンク）のP.7を参照

7

項：続いて、上方修正の背景を含めて、事業の状況の詳細について項より説明いたします。

今期から成長戦略を新たにし、これまで「機械の眼」として独自の空間知覚の社会実装を加速させるため、技術と事業領域の拡大を目指しております。

具体的には、Kudan は現実空間とデジタル空間を結合する「空間知覚」として、ロボットが現実空間をデジタルに把握することでロボットの自律化を推し進めたり、現実をデジタル空間上に複製することでデジタルツインによる生産性向上を実現することを目指しておりますが、前期までの進捗として、顧客製品化が伸長し、中長期の成長に向けて積み上げは達成したものの、一方で製品化以降の普及速度が想定を下回り短期的な課題として取り組みが必要な状況でした。

これに対する今期からの成長戦略では、ソフトウェア技術の拡張とハードウェアパッケージの活用により、開発案件の収益強化と製品普及の後押しのための技術領域拡大を実現し、独自の人工知覚を中核として、ソフトウェアとハードウェアの双方で補完技術を強化。結果として、中長期的には引き続きライセンス収益による高成長を目指す方針となっております。

売上拡大の背景

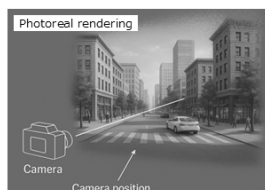
- 技術需要の次世代シフトが加速、当社の先進性の強みが発揮しやすい市場環境へ徐々に変化
- 技術・事業領域の拡大も効果を発揮し、案件が拡大、開発フェーズにおける収益性も改善

市場では、既存技術が一段落したのち、現在は革新期に突入し...

先行技術が需要を獲得しやすい
市場環境へ

デジタル ツイン

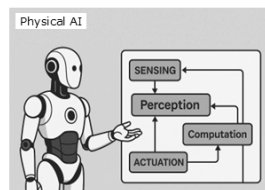
- ・ フォトリアル技術とそれによるAI活用が革新的な潮流となり、技術進化と実用化が急速に進行
- ・ Nvidia社などをはじめとして、数十年に一度のイノベーション技術として着目されており、需要が急増



- ・ フォトリアル技術とAI活用の先進的な応用で当社は先行
- ・ 次世代のSW/HW/ソリューションを一貫して提供可能な希少な企業として需要が高まり

ロボット

- ・ AIがロボットを通して現実世界に拡大するPhysical AIが急速に発展
- ・ 有脚型・人型ロボットなど次世代のロボットハードウェアも実用化に向けて大きく拡大



- ・ 当社が強みとする複雑環境や高度ロボティクス等、より先進的なアルゴリズムの必要性が増大
- ・ デジタルツインとロボットの双方をカバーする希少な企業であり、そのシナジーで大きな優位性を発揮（AI活用の鍵となるシミュレーション等）

技術・事業領域の拡大

- ① SW技術の拡張
 - ② HWパッケージの活用
- による案件拡大・収益性改善も効果を発揮

1. Nvidia社技術ブログ [リンク参照](#)

8

項：一方、市場の状況としては、技術需要の次世代シフトが加速し、当社の先進性が発揮しやすい市場環境へ徐々に変化しております。

具体的には、デジタルツイン領域では、フォトリアル技術とそれによるAI活用が革新的な潮流となり、技術進化と実用化が急速に進行し、Nvidia社などをはじめとして、数十年に一度のイノベーション技術として需要が急増中ですが、フォトリアル技術とAI活用の先進的な応用で先行している当社は、次世代技術を一貫して提供可能な希少な企業として需要が高まっております。

またロボット領域では、AIがロボットを通して現実世界に拡大するPhysical AIが急速に発展し、有脚型や人型ロボットなどの次世代ロボットも実用化に向けて拡大する中、当社が強みとする複雑環境や高度ロボティクスなど、より先進的なアルゴリズムの必要性が増大しており、さらにデジタルツインとロボットの双方をカバーする希少な企業である当社は、そのシナジーで優位性を発揮しやすくなっている状況です。

こうして、市場が革新期に突入し、先行技術が需要を獲得しやすい市場環境に向かっておりますが、今期からの技術・事業領域の拡大方針も効果を発揮し、案件が拡大、開発フェーズにおける収益性も改善しております。

デジタルツイン向け案件（1/3）

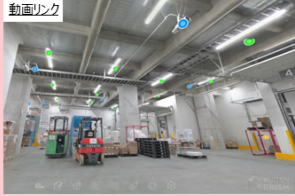


- SWソリューションとHWパッケージを組み合わせた革新性の高い技術・製品ポートフォリオで、新規市場需要を開拓し今期業績の成長に大きく寄与

新規リリース（次ページ詳細）

デジタルツインソリューション
(Kudan PRISM¹⁾)

動画リンク



- ・フォトリアル表示とセマンティック3D認識の融合によってデジタルツインの活用革新をもたらす世界初²の次世代ソリューション
- ・欧州³・日本にて、設備管理・点検・保守等で効果を市場検証済、今期の本格展開と商用ユーザー拡大を進める
- ・土木建設・不動産・インフラ・物流・製造向けに市場急拡大の予想（2040年に100兆円超⁴）

3Dスキャナ
(XGRIDS)



- ・Kudan PRISMと相互補完するスキャナ機器（高精度なデータを生成）
- ・前期よりXGRIDS社との戦略的提携⁵を拡大して急成長中
- ・高性能かつ低価格で高い競争力を持ち、特にフォトリアル表示の実用化で世界市場を牽引

- ・技術と販売の双方で高いシナジーを発揮、結果として今期売上増に大きく寄与
- ・新規性が非常に高く、新たに市場需要を開拓
- ・世界市場展開で高い成長ポテンシャル

1. PRISM : Photo-Realistic Integrated Spatial Management (フォトリアル統合型空間管理)

2. フォトリアル表示とセマンティック3D認識を融合した設備管理向けソリューションの実用化。2025年6月当社調べ

3. 欧州にて拡大するアセットマネージメント（設備管理）での取り組みの一例（参照リンク）

4. 各調査機関（Verdantix, IMARC, MRFR 等）による成長率（CAGR 20~40%）とともに、2040年にはデジタルツイン市場全体が100兆円（約7,000億ドル）規模に達すると推計される。

5. XGRIDS社との事業提携（参照リンク）

項：続いて、デジタルツインとロボットのそれぞれの事業状況について詳細を説明します。

まずデジタルツイン向けの事業ですが、ソフトウェアソリューションとハードウェアパッケージを組み合わせた革新性の高い技術・製品ポートフォリオで、新規市場需要を開拓し今期業績の成長に大きく寄与しております。

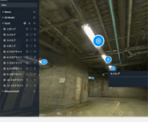
具体的には、デジタルツインソリューションとして Kudan PRISM をリリースし、フォトリアル表示とセマンティック 3D 認識の融合によってデジタルツインの活用革新をもたらす世界初の次世代ソリューションとして市場から好評を得ております。

欧州と日本において、設備管理・点検・保守などで効果を市場検証済となっており、土木建設・不動産・インフラ・物流・製造向けに市場急拡大が予想される中、今期の本格展開と商用ユーザー拡大を進めております。

また、Kudan PRISM と相互補完する 3D スキャナ機器の販売が、前期より XGRIDS 社との戦略的提携を拡大して急成長しており、高性能かつ低価格による高い競争力と、フォトリアル表示の実用化で世界市場を牽引しております。

これらデジタルツインソリューションと 3D スキャナは、技術と販売の双方で高いシナジーを発揮して、今期売上増に大きく寄与しており、高い新規性で新たに市場需要を開拓、世界市場展開で高い成長ポテンシャルを持っております。

- 社会需要が非常に高いものの、従来手法では実用化に制約があった分野に対し、Kudan PRISMは革新的な技術手法を導入し、ソリューションの実用化と普及を目指す

Kudan PRISMによる革新的な技術手法のソリューション化			幅広い産業DXに活用（一部事例を抜粋）		
従来手法	3D点群	・ 3D点群中心のデータの使用 ・ AI認識の精度の低さ、データの容量・取り扱いの難しさ、既存システムとの連携の難しさ、などに課題 ・ 実用化が限定的	施設・設備管理		・ 従来困難となっていた領域でのDX促進により、業務自動化・効率化や作業の遠隔化を実現
	Kudan PRISMによる革新手法	・ 3D点群に加えて、フォトリアル表示を3D合成 ・ 更に、セマンティック3D認識で、AI活用が飛躍的に拡大 ・ データ利用・連携が効率化 ・ 実用化の拡大が見込まれる	インフラ点検保守		・ 先進国に共通する現場労働力の不足、設備インフラの老朽化の解消に向けて需要が拡大
			スマートシティ・災害対応		・ 需要が高まる災害シミュレーション・防災設計を高度化し、人命保護・災害復興に貢献

10

項：今期新規リリースしております Kudan PRISM の詳細です。

Kudan PRISM は、これまで社会需要が非常に高いものの、従来手法では実用化に制約があった分野に対し、革新的な技術手法を導入してソリューションの実用化と普及を目指しております。具体的には、従来の 3D 点群中心のデータ使用に加えて、フォトリアル表示を 3D 合成し、これをセマンティック 3D 認識することで AI 活用が飛躍的に拡大しております。

Kudan PRISM は幅広い産業 DX への活用が期待され、施設・設備管理やインフラ点検保守では、従来困難となっていた領域での業務自動化・効率化や作業の遠隔化を実現するとともに、先進国に共通する現場労働力の不足、設備インフラの老朽化の解消に向けて需要が拡大しております。

また、スマートシティや災害対応に関しても、需要が高まる災害シミュレーションや防災設計を高度化し、人命保護・災害復興への貢献を目指しております。

- Kudan PRISMでは社会インフラの安全・効率的な維持管理のための技術提供を通じて、現場の省力化・業務高度化に貢献
- ネクスコ東日本エンジニアリング社とは、道路点検・保守業務DXに向けて技術支援
- 共同開発中のPRISM e-Road (仮称)では、軽快に動くフォトリアル3D表示、先進的な空間知覚技術、高度なデータ管理・情報連携を提供
- 現場情報の一元管理や発注業務の簡素化・手戻りの削減を目指す



11

項：Kudan PRISM の具体事例を紹介します。

たとえば、ネクスコ東日本エンジニアリング社とは、道路点検・保守業務 DX に向けて技術支援をしており、共同開発中の PRISM e-Road では、軽快に動くフォトリアル 3D 表示、先進的な空間知覚技術、高度なデータ管理・情報連携を提供しております。

現場情報の一元管理や発注業務の簡素化・手戻りの削減を目指しており、Kudan PRISM では社会インフラの安全・効率的な維持管理のための技術提供を通じて、現場の省力化・業務高度化に貢献してまいります。

ロボット向け案件（1/3）－ 自律走行パッケージ

■ 技術領域を拡大して、案件の大型化と社会実装の早期化を目指し、グローバルで複数案件を推進中

潜在的な巨大市場に対して、技術的なチャレンジが存在



これまでの実績をもとに、技術領域を拡大して取り組む



コア技術

- これまで、自己位置推定 & 環境地図生成により、**従来困難だった複雑環境での実用化を達成**

新規SW

- 加えて、より幅広い顧客層への提供と効率的な開発を実現するため、**自律走行に必要な補完SW技術を全て統合**

新規SW・HW

- さらに、複雑環境に適した有脚型ロボットを活用し、**点検ロボット向けソリューションの開発にも着手²⁾**
- 設備管理などに取り組む**デジタルツイン向け事業**ともシナジーを発揮

[コア]自己位置推定 & 環境地図生成
(ナビゲーションの中核的要素)

[新規]自律走行ナビゲーション
(経路計画や衝突回避等を含む統合システム)

動画リンク
Robot Navigation Stack

1. BCC ResearchやMarket Research Future等の調査より、複数年の成長率セグメント（CAGR 12~16%以上）を前提に、2040年には市場全体が300兆円（約2兆ドル）規模に達する可能性

項：続いて、ロボット向け事業の状況について説明いたします。

これまでの顧客製品化の進捗をふまえ、今期より技術領域を拡大して、案件の大型化と社会実装の早期化を目指し、グローバルで複数案件を推進しております。

自律走行ロボットはその潜在的な巨大市場に対して、従来技術で実用可能なのはごくわずかと、技術的なチャレンジが存在していました。

2040年には300兆円に成長するロボット市場のほとんどは、次世代技術が必須となる困難な複雑環境となっておりますが、Kudanはこれまでのコア技術である自己位置推定と環境地図生成により、そのような複雑環境での実用化を達成する実績をこれまで積み上げてきました。

今期からは、これに加えてより幅広い顧客層への提供と効率的な開発を実現するため、自律走行に必要な補完的なソフトウェアを全て統合し、自律走行ナビゲーションパッケージへと拡大しております。

さらに、複雑環境に適した有脚型ロボットを活用し、点検ロボット向けソリューションの開発にも着手、設備管理などに取り組むデジタルツイン向け事業とのシナジー発揮を目指しております。

ロボット向け案件（2/3）－ 政府プロジェクトへの参画



- ロボティクス向けには、経産省が推進し建設業界大手が参画するソフトウェア開発事業に開発リーダー¹として推進、日本におけるロボット自律走行のコア技術開発の牽引を担う

背景となる日本の国策	事業概要	当社の役割と今後への期待										
- 人材不足は社会課題として深刻化しており、ロボット導入は不可欠な対応として、政府と産業界は施策を強化 - 特にこれまで導入困難だった市場においては、ロボットの自律性を高める技術革新が必須 経済産業省 資料抜粋 AIロボットによる社会課題への対応 - 日本における構造的・慣性的な人手不足は、地域の生活必需サービス等で顕著に、深刻な労働力不足の傾向が現れつつあることから、ロボット導入が不可欠。 - サービス分野等のロボット導入が浸透した市場（少人数多量稼働）においては、少人数稼働の実現、人と協する稼働環境への対応が不可欠。 - そのためには、ロボットの開発の柔軟性と、稼働の自律性を革新させる取組が必要。 ＜ロボットの導入市場＞ 少人数多量稼働市場 少人数多量稼働市場への対応 少人数多量稼働市場への対応 少人数多量稼働市場への対応	- 課題の大きい建設向けをモデルケースとして取り組み、ゼネコン大手各社が加盟する建設RXコンソーシアム²と建設業界横断で推進 - 汎用的なロボット自律走行技術の確立を目指し、将来的にはより幅広い産業³に対する応用展開を見込む <table border="1"> <tr> <td>公算元</td> <td>NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合研究機構）</td> </tr> <tr> <td>事業名</td> <td>ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤構築</td> </tr> <tr> <td>採択テーマ</td> <td>建設市場のロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤の研究開発</td> </tr> <tr> <td>実施期間</td> <td>2025年度～2027年度 予定</td> </tr> <tr> <td>全体予算</td> <td>103億円（3年間合計）</td> </tr> </table>	公算元	NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合研究機構）	事業名	ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤構築	採択テーマ	建設市場のロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤の研究開発	実施期間	2025年度～2027年度 予定	全体予算	103億円（3年間合計）	- 技術と実績を認められ、中核となるソフトウェアリーダー¹として採択 - 当社技術の社会実装・普及の加速を見込む - 関連するロボット関連の政府方針についても継続した緊密な連携を目指す 建設向け自律走行ロボットのイメージ - 産業横断基盤となる開発プラットフォーム/マーケットプレイス⁴に対して提供⁴ - 高市新政権の成長投資の戦略分野⁵の筆頭となるAI・半導体に対しても連携強化
公算元	NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合研究機構）											
事業名	ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤構築											
採択テーマ	建設市場のロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤の研究開発											
実施期間	2025年度～2027年度 予定											
全体予算	103億円（3年間合計）											

1. ロボット自律走行を実現するためのソフトウェアモジュールの開発を主導（計画策定・進行、中核技術の設計と開発、参画企業5の開発成果の統合）
 2. 建設業界が抱える就労人口の減少、生産性・安全性の向上などの課題の解決に向け、施工ロボットやIoTアプリ等の開発と利用に係るロボティクストランスフォーメーション（ロボット変革）を推進すべく設立した民間団体
 3. 物流・製造・インフラ管理・農業など幅広い産業への波及的な展開にも期待； 4. 当該事業の公募説明会資料にて概説（参照リンク）； 5. 内閣官庁日本成長戦略本部に設ける成長戦略の検討課題（参照リンク）

13

項：こうしたロボティクス向けの取り組みの中、政府プロジェクトへの参画を活発化させ、経済産業省が推進し建設業界大手が参画するソフトウェア開発事業を開発リーダーとして推進、日本におけるロボット自律走行のコア技術開発の牽引に力を入れてまいります。

こうした国策の背景としては、人材不足に対する政府と産業界の注力があり、Kudan が得意とする困難な複雑環境でのロボットの自律性を高める技術革新が求められております。

今回の案件では、課題の大きい建設向けをモデルケースとして取り組み、ゼネコン大手各社と建設業界横断で推進し、汎用的なロボット自律走行技術を確立することで将来的にはより幅広い産業に対する応用展開を見込んでおります。

Kudan は、技術と実績を認められ、中核となるソフトウェアリーダーとしての採択となっておりますが、本事業を通して産業横断基盤となる開発プラットフォームとマーケットプレイス⁴に対して技術提供を今後行っていく、当社技術の社会実装と普及の加速を見込んでおります。

そして政府プロジェクトにつきましては、新政権の成長投資の戦略分野にも密接に関連しておりますので、関連の政府方針については継続した緊密な連携を目指してまいります。

ロボット向け案件（3/3）－ XR放映用ロボットカメラ



- Fox Sports社およびSkycam社との協業により、当社技術が2024年よりNFLスーパーボウル等の世界最高峰の舞台で採用され、**2025年はシーズンを通してNFL放映の実運用を継続して拡大**
- 低コストで視覚効果の高いXR放映を下支えするロボットカメラ向けに、**独自の空間知覚を応用したSW技術として特許取得し、Kudan VANTAGEとして正式リリース¹**
- 今後はスタジアム・コンサートホール・バーチャルスタジオなど、**世界規模の主要スポーツ・ライブイベント等への導入拡大を目指す**



1. 11月13日当社リリース「Kudan、次世代XR放送を変える革新的カメラトラッキングソリューション「Kudan VANTAGE™」を正式発表」

14

項：また、グローバル最先端の取り組みとして、XR 放映用のロボットカメラ向け案件も進捗を重ねております。これまで、Fox Sports 社および Skycam 社との協業により、当社技術が 2024 年より NFL スーパーボウル等の世界最高峰の舞台で採用され、2025 年はシーズンを通して NFL 放映の実運用を継続して拡大してまいりました。

そしてこの度、低コストで視覚効果の高い XR 放映を下支えするロボットカメラ向けに、独自の空間知覚を応用した SW 技術として特許取得し、Kudan VANTAGE として正式リリースいたしました。

今後はスタジアム・コンサートホール・バーチャルスタジオなど、世界規模の主要スポーツ・ライブイベント等への導入拡大を目指してまいります。

その他ハイライト案件（一部抜粋）



	顧客	概要	進捗
デジタル ツイン	● インフラ管理大手	・ 上下水道の設備管理向けDX	・ PRISMのトライアル導入向け案件が開始予定
	● 建設機械大手	・ 施工進捗・設備状況・安全管理向けDX	・ PRISMを導入、拡大に向けて支援中
	● 不動産設備管理大手	・ 施設管理業務の自動化・省人化向けDX	・ 戦略的業務提携に基づき、導入準備を継続中
	● 建設ソリューション	・ 施工進捗管理を目的とした建設現場向けDX	・ 商用ソリューション開発に技術提供開始
	● 通信大手	・ シティ規模のマッピングソリューション展開	・ 技術検証を継続中
	● 大手自動車	・ 自動運転マップ生成向けフォトリアル技術	・ 技術提供と検証を開始予定
ロボット	● 自動搬送ロボット複数	・ 複雑環境における難易度の高い位置推定	・ 難易度の高い工場への追加導入が決定、導入準備中
	● 点検ロボット	・ 点検用の四足歩行ロボット向け位置推定	・ 技術提供開始、顧客開発を支援中
	● 産業用コンピュータ	・ AIOロボット開発キット向け自律走行技術	・ 技術提供開始、顧客開発を支援中、近日製品化予定
	● 自動車大手	・ GPS不安定環境でのロボタクサー向け位置推定	・ 多様な条件下での性能向上に向けて開発・検証中
	● プラント施工大手	・ 危険区域での重機遠隔操縦向け位置推定	・ 技術提供開始、検証を継続中
	● ITソリューション	・ リアルタイム物品位置管理向け位置推定	・ 技術提供開始、顧客開発を支援中
	● 製造エンジニアリング	・ リアルタイム物品位置管理向け位置推定	・ 技術提供開始、検証を継続中

15

項：続いて、ハイライト案件の抜粋です。

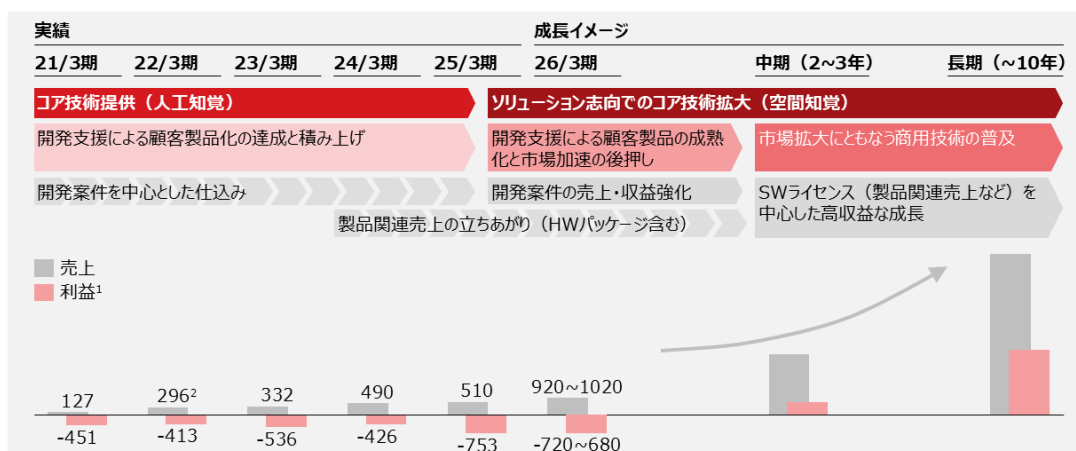
詳細を紹介しております案件以外にも、デジタルツインとロボットの両方で、グローバルで多くの案件が進捗しております。

今後も継続した事業状況のアップデートと詳細の開示に努めてまいります。

中長期の成長イメージ



- 技術領域の拡大戦略のもと、短期的には開発案件とHWパッケージによる成長をより強化しながら、中長期的には市場の加速に合わせ、商用技術の普及とSWライセンスの拡大で飛躍的な成長を目指す



16

項：最後に、改めて中長期の成長イメージとなりますが、今期からの技術領域の拡大戦略、すなわちソリューション志向でコア技術拡大して空間知覚を推し進める方針のもと、2～3 年程度の

短期な計画としては開発案件とハードウェアパッケージによる収益性改善と成長をより強化しながら、中長期的には市場の加速に合わせ、商用技術の普及とソフトウェアライセンスの拡大で飛躍的な成長を目指してまいります。

以上で決算発表説明を終わります。

※決算説明の内容に関するご質問につきましては、下記の問い合わせ先にて頂戴いたします。
また、ご希望の会社様には、個別取材も承りますので、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

■会社概要

会 社 名：K u d a n株式会社

証券コード：4425

代 表 者：代表取締役 CEO 項 大雨

■お問い合わせ先は[こちら](#)